

桑名市公立版就学前共通カリキュラム

令和4年3月

カリキュラム作成に係る調査推進委員会

はじめに

乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。

近年、忍耐力や自尊感情等の非認知能力を幼児期に身に付けることが、将来を大きく左右すると言われています。このような時期に行われる保育・教育は、子どもの心身の健やかな成長を促す上で重要な意義を有するものです。

本市では、平成19年4月に、「桑名市における就学前教育の今後のあり方について」最終答申が出され、市の就学前教育の理念が構築されました。

答申には「理念実現のためには、それぞれの機関がこれまで積み上げてきた保育の基本的な考え方や保育の姿勢を互いに理解し合い、公私立や幼保の垣根を越えて、共通のカリキュラムを作成し、実践していくことが必要である。」と示されました。そのことを受けて、学識経験者をはじめとして、公私立保育士、公立幼稚園教諭、保健師、さらに小学校への接続を考慮し小学校教諭も交えて、カリキュラム作成に係る調査推進委員会を立ち上げて検討を重ね、平成22年1月に桑名市共通カリキュラムを作成いたしました。

目まぐるしく変化し続ける現代社会に対応するために、平成29年3月31日に、「幼稚園教育要領」が改訂、「保育所保育指針」が改定、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂され、幼稚園も保育所も幼保連携型認定こども園も、幼児教育施設として位置づけられました。3歳未満児に対する保育の質を向上させるための具体的な内容や保育の内容が盛り込まれ、「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」として、「育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化され、乳児期からの発達と学びの連続性、「小学校教育との接続のあり方」が明示されました。

本市の現行の共通カリキュラムにつきまして、国の改訂・改定内容との整合性を図るとともに、今回は市内の公立の就学前施設に特化した共通カリキュラムとして、実践により蓄えられた知見等を反映させるべく、改訂を行いました。

乳幼児に関わる全ての保育者の皆様に、ご活用いただき、幼児教育のさらなる質の向上へと結びつけていただければ幸いです。

公立版共通カリキュラム作成に尽力をいただきました委員の皆様には心より感謝申し上げます。

令和4年3月

桑名市保健福祉部 子ども未来局 子ども未来課 保育支援室
桑名市教育委員会 学校支援課

目次

はじめに

I 「桑名市の公立施設における就学前教育の今後のあり方について」	・ ・ ・ ・ ・ 1
1 桑名市の公立施設のめざす就学前教育	・ ・ ・ ・ ・ 1
2 桑名市の公立施設における就学前教育のめざす子ども像	・ ・ ・ 1
3 桑名市公立版共通カリキュラムの基本理念	・ ・ ・ ・ ・ 1
II 公立版共通カリキュラムの構造	・ ・ ・ ・ ・ 3
1 こんな子どもに育てたい4本柱	・ ・ ・ ・ ・ 3
2 カリキュラムの内容	・ ・ ・ ・ ・ 3
3 発達上の時期の区分	・ ・ ・ ・ ・ 5
4 「ねらい」及び「援助のポイント」	・ ・ ・ ・ ・ 5
5 保護者・地域社会との連携	・ ・ ・ ・ ・ 5
6 小学校への接続	・ ・ ・ ・ ・ 6
7 SDGsの教育・保育の推進	・ ・ ・ ・ ・ 8
8 地域における子育て支援の拠点としての役割	・ ・ ・ ・ ・ 8
9 カリキュラムの活用及び留意点	・ ・ ・ ・ ・ 8
III 桑名市の公立施設における就学前教育のイメージ図	・ ・ ・ ・ ・ 9
資料	・ ・ ・ ・ ・ 10～

I 「桑名市の公立施設における就学前教育の今後のあり方について」

1. 桑名市の公立施設のめざす就学前教育

子どもの健やかな育ちを中心におき、幼稚園・保育所の特性を活かしつつ、次の点を大切にした就学前教育を行います。

- ・子どもの笑顔と元気があふれる園づくりをします。
- ・遊びを通して学ぶことを大切に、人としての土台を作ります。
- ・保護者と協働して子どもを育てます。
- ・一人一人に応じた子どもへの支援を行い、子どもの育ちを支えます。

2. 桑名市の公立施設における就学前教育のめざす子ども像

夢中になって遊びこむ子

「興味関心をもった遊びを楽しむ中で、目的を見出し、その目的の達成に向けて自分の経験を活かし、友達と協同して遊び込む子」であると考え、めざす子ども像とした。

3. 桑名市公立版共通カリキュラムの基本理念

(1) 共通カリキュラムの位置付け

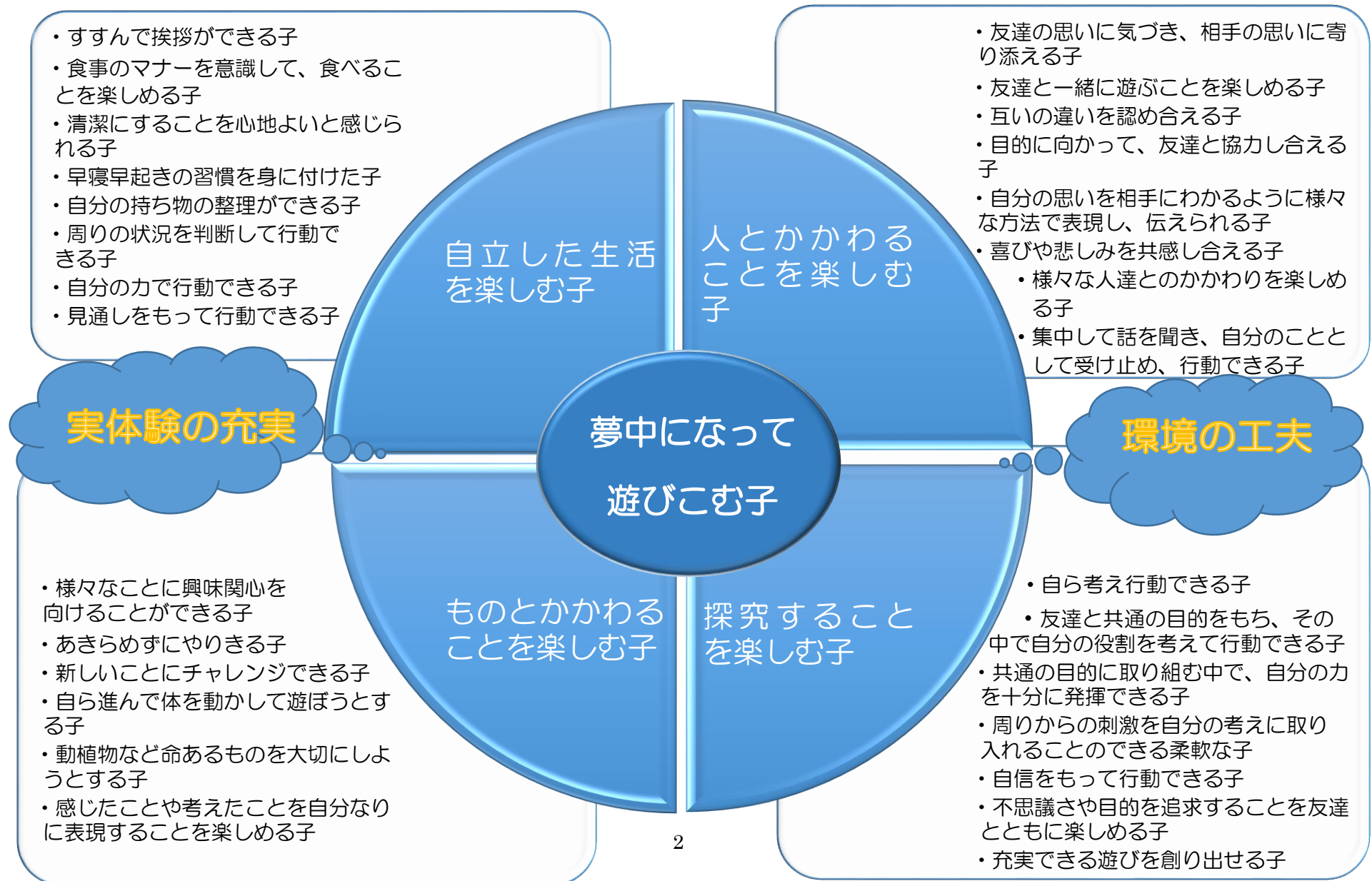
本市の子どもたちの確かな育ちを保障するために、公立幼稚園・保育所共通の保育・教育の基本的な部分を示すものである。

桑名市公立版共通カリキュラムを基に、各施設や地域などの実態を考慮した特色あるカリキュラムを作成し、保育・教育を進めていくものとする。

(2) 共通カリキュラム作成にあたっての基本方針

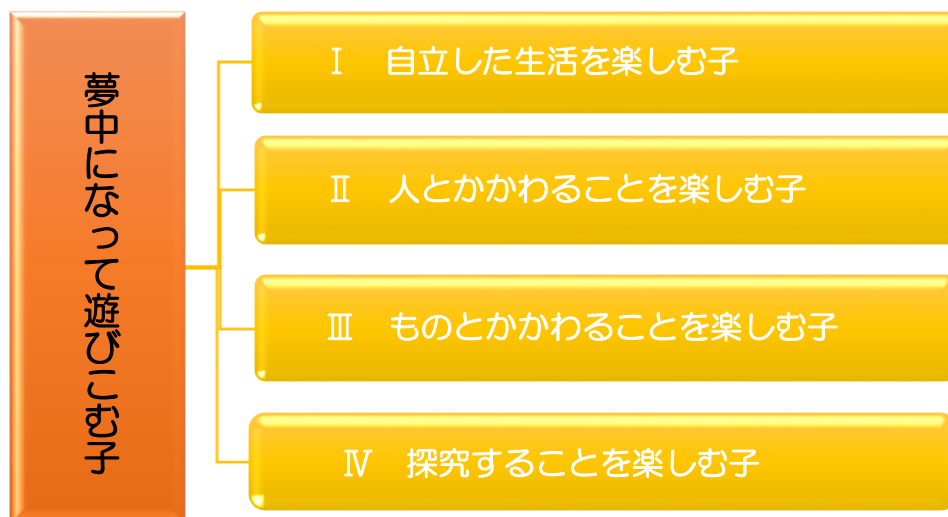
- (ア) 0歳から就学前までの発達をふまえ、連続した一貫性のある内容とする。
- (イ) “遊びを通した学び”を基本に、子どもの自発的な活動が大切にされる内容とする。
- (ウ) 子ども自身が主体性を十分に発揮することのできるかわりや環境構成など、保育者の基本的な役割について、発達に見通しをもった内容とする。
- (エ) 幼児教育から小学校教育への円滑な移行を図るために、小学校との接続を視野に入れた内容とする。
- (オ) 地域における子育て支援の拠点としての役割を含む内容とする。

こんな子どもに育てたい！



Ⅱ 桑名市公立版共通カリキュラムの構造

1. こんな子どもに育てたい4本柱



2. カリキュラムの視点

- ◆ 子どもたちの毎日の生活や遊びの中で、保育者がどのようなことをねらいとして、どのような援助をしていくのかを明らかにしていくためには、保育の視点が必要であると考えた。
- ◆ 子どもたちの課題から導き出した『こんな子どもに育てたい4本柱』を基に、経験させたい内容として以下の4つの視点を設定した。

《各視点の内容》

①自立した生活に向かうための視点	養護に関わるねらい及び内容「ア 生命の保持」 「イ 情緒の安定」 五領域 「健康」 「人間関係」
子どもが安定した生活を送るために必要な生活の基本行動である食事・着脱衣・清潔・排泄・睡眠の生活習慣を形成するとともに、自己肯定感を高め、見通しをもって生活できるようになる力を育む視点である。 安定した生活リズムと居場所、見守りのもと、1つのことを繰り返し丁寧に経験する中で、自分の力で行動する力を身に付け、自らの成長を実感しながら、様々なことに意欲的に取り組めるようにします。	

②人とのかかわる力を育むための視点

五領域 「人間関係」「言葉」「表現」

身近な人とのかかわりの中で、一人一人が自分の思いや考えをもち、言葉にして伝えるなど表現する力を育むとともに、自分とは異なる友達の思いや考えに気づき、互いを尊重し認め合うことのできる力を育む視点である。

友達とぶつかり合いながらも思いや考えを伝え合い、譲り合い、認め合いながら、友達と協力して何かをやり遂げる喜びを感じる経験を通して、自分を大切にする心や友達を思いやる心を育てます。

③ものとかかわる力を育むための視点

五領域 「健康」「環境」「表現」

身近な自然など環境とのかかわりの中で、体を十分に動かし、五感を働かせ、様々なものに興味や関心をもって気づきや発見を楽しむとともに、それらを遊びや生活に取り入れることのできる力を育む視点である。

自分の興味・関心をもったことに心と体を働かせてじっくりとかかわれる環境のもとで、不思議さや面白さを全身で感じ取り、感じたことや考えたことを自分なりに表現する経験を通して、豊かな感性や創造性を育てます。

④探究する力を育むための視点

五領域 「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」

身近なものや事象に対して不思議さや面白さを感じ取り、独力で何かをやり遂げたり、共通の目標やイメージのもと、友達と協力して何かをやり遂げたりしながら、夢中になって探究する力を育む視点である。

夢中になれることや疑問に思ったことに対して粘り強く取り組み、友達とともに最後までやり抜く経験を通して、友達とともにあることの喜びや楽しさを味わうとともに、粘り強さややり抜く力を育てます。

3. 発達上の時期の区分

- ◆ 0歳から就学前までを以下のように区分した。

0歳の頃 (4～6か月、6～10か月、10～12か月の頃等)

1歳の頃 (前半、後半)

0歳の頃			1歳の頃		2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
4～6か月	6～10か月	8～12か月 10～12か月	前半	後半				

- ◆ 心身の発育・発達の個人差が大きく、個別のカリキュラムを作成して保育を進めている0歳の頃～1歳の頃までの乳児は「～の頃」と表記をした。これは、月齢にこだわらず、一人一人の発達に合わせて柔軟に活用できるようにするためである。
また、成長が著しく大きな発達の節目のある0歳の頃、1歳の頃は細かく期を分けて詳細に記載した。
- ◆ 学級毎にカリキュラムを作成して保育を進めている2歳児～5歳児の幼児は、「～歳児」と表記をした。そして、友達との関係が芽生え、広がり、深まり、影響し合いながら成長していく子どもたちの発達を踏まえ、集団の中での育ちに視点を置いて記載した。
- ◆ 0歳の頃から5歳児までを通して、子どもの成長・発達はそれぞれに違い、行きつ戻りつしながら進んでいくものである。月齢・年齢の区分は、発達の道筋として捉え、あくまでもめやすになるものである。

4. 「ねらい」及び「援助のポイント」

- ◆ 「ねらい」は、4つの視点それぞれの力を育むために、各年齢・期ごとにめざす内容や子どもの姿であり、「援助のポイント」は「ねらい」を達成する上での、保育者の配慮事項を記したものである。
- ◆ 「ねらい」の養護に関する内容についてはおもに保育者の視点から、その他の内容についてはおもに子どもの視点から記載した。

5. 保護者・地域社会との連携

<保護者との連携>

- ◆ 0歳の頃から5歳児までを通し、子どもが適切な生活リズムのもとで快適な生活を送るためには、家庭との連携を密にし、一人一人の状態を把握することが必要である。特に乳児期においては、子どもの状態が急変することもあり、重要な事項であることから、「援助のポイント」に記載してある。
- ◆ 保護者が幼稚園・保育所での子どもの様子を実際に見ることで子どもに関する

理解を深められるように保育参加、参観などの場を設定するなど、子どもの成長をともに感じ、喜べるような工夫も大切である。

また、子育てに不安や孤立感を感じている保護者への支援としての相談窓口、保護者同士がつながりあえるような場となることも大切である。

＜地域社会との連携＞

- ◆ 園外活動で近隣の公園に散歩に出かけるなど、自然に関わる直接的な体験ができる機会を積極的に取り入れたり、地域の祭りや行事に参加したりして、自分たちの住む地域に親しみを感じたり、地域の伝統や文化に気付くような体験の工夫も大切である。
- ◆ 地域の高齢者や近隣の小中学生や他の就学前施設の園児など、様々な人と交流する機会をもつことで、豊かな生活体験ができるようにすることも大切である。
- ◆ 園開放や情報誌などを通して、各就学前施設での子どもたちの様子や成長、子育てに関する情報を地域に発信することで、地域での子育て支援の充実を図ることも大切である。

6. 小学校への接続

- ◆ 「小学校への接続」については、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にあるように、小学校教育の先取りをすることではなく、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うことが肝要である。保育の中で創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎が培われるよう、毎日の生活や遊びを充実させるように援助をしていくことが大切である。本委員会でも、作成されたカリキュラムに沿って豊かな経験を積み重ね、具体的には就学前までに以下のようなねらいを達成していることが、小学校への円滑な移行につながると考えている。



【就学前教育の中で育みたい力】

①生活の自立に向うための視点

子どもが安定した生活を送るために必要な生活の基本行動である食事・着脱衣・清潔・排泄・睡眠の生活習慣を形成するとともに、自己肯定感を高め、見通しをもって生活できるようになる力を育む

②人とのかかわる力を育むための視点

身近な人とのかかわりの中で、一人一人が自分の思いや考えをもち、言葉にして伝えるなど表現する力を育むとともに、自分とは異なる友達の思いや考えに気づき、互いを尊重し認め合うことのできる力を育む

③ものとかかわる力を育むための視点

身近な自然など環境とのかかわりの中で、体を十分に動かし、五感を働かせ、様々なものに興味や関心をもって気づきや発見を楽しむとともに、それらを遊びや生活に取り入れることのできる力を育む

④探究する力を育むための視点

身近なものや事象に対して不思議さや面白さを感じ取り、独力で何かをやり遂げたり、共通の目標やイメージのもと、友達と協力して何かをやり遂げたりしながら、夢中になって探究する力を育む

心身の健康に関する領域

「健康」

人とかかわりに関する領域

「人間関係」

身近な環境とのかかわりに関する領域

「環境」

言葉の獲得に関する領域

「言葉」

感性と表現に関する領域

「表現」

【「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連型認定こども園教育・保育要領」に示された領域】

健康な心と体



自立心



協同性



思考力の芽生え



言葉による伝え合い



【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

自然とかかわり・生命尊重



道徳性・規範意識の芽生え



社会生活との関わり



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



豊かな感性と表現



- ◆ 就学に向けて、子どもの発達と学びの連続性を確保するため小学校の教員との教職員間の交流を計画的に行い、子どもの成長を共有し、発達の流れを理解した教育が行われるようにしていく。
- ◆ 特に5歳児と児童の交流を近隣の小学校と連携して行うことも、小学校就学に向けての自身や期待を高めたり、不安を和らげる有効な活動である。

7. SDGsの教育・保育の推進

- ◆ 一人一人の個性や特性が受け入れられ、どの子も公平に大切にされ、誰もが充実した乳幼児期を過ごすことができるような環境をつくることが大切である。
- ◆ どの子も安心できる居場所をクラスの中で見出すことができ、自分の大切さとともに、まわりのものや友達も自分と同じくらい大切にできるような関係をつくることが大切である。
- ◆ 日々の遊びや生活の中で生じた様々な課題に対して、子どもたち一人一人が自分のこととして向き合い、課題の解決に向けて友達と協力して取り組むことができるようなクラスをつくることが大切である。また、そうした取組を通して自分がクラスの一員として所属し、貢献しているという実感をもてるようになることが大切である。

8. 地域における子育て支援の拠点としての役割

- ◆ 「地域における子育て支援の拠点」として、幼稚園・保育所には、その専門性を活かし地域や関係機関と連携しながら、未就園児とその保護者への子育て支援を担う役割が求められている。
園舎・園庭開放などを実施したり、保護者の子育て相談や子育てに関する情報を提供することもその一貫である。
その際、子どもへのかかわり方等、具体的な内容についての情報提供に役立てていただければと考える。

9. カリキュラムの活用及び留意点

- ◆ 本カリキュラムは、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基に作成し、桑名市の公立版としてより具体的に示したものである。
- ◆ 各幼稚園・保育所独自の保育・教育課程や指導計画作成の際、基本にしていたくものであり、ねらいに沿った、具体的な保育の内容については、園の特性や地域性を生かし、各園で独自に構成するものとする。
- ◆ 幼稚園・保育所で活用しやすいものとするため、「ねらい」に迫るカリキュラムづくりのイメージの一例として紹介するものである。必ず取り入れなければならない内容ではなく、クラス・園の実態・地域性を考慮し、園独自で様々な遊びを工夫していくことが望まれる。

Ⅲ 桑名市における就学前教育のイメージ図



子どもの様子から見られる課題

資料 1

共通カリキュラムの改訂にあたり、現状の子どもたちの姿から見られる課題について話し合ったところ、以下のような課題があげられた。

（生活）

- 朝ご飯を食べてこない子がいる
- 好き嫌いが多くなっている
- 手作りの食品を食べることが減っている
- 食への関心が薄い
- ながら食べをしている
- 食具が上手く使えない
- 食べる時の姿勢がよくない
- 体温調節が苦手
- 夜遅くまで起きていて、朝早く起きることができず朝からイライラしている
- 朝からゲームなどをしている
- オムツを外す時期が遅くなっている
- 感覚過敏であったり、無関心であったり二極化している

（運動）

- はいはいの時期が短かったり、ない子もあり足腰が弱い
- 身長・体重の発育と筋力の発達がアンバランスで、体のバランスをとりにくい
- 体力がなく、疲れやすい
- 歩く経験が少ない
- 転びやすく、転んだ時に手が出にくい

（社会・感情）

- 粘り強く頑張る力が弱くなっている
- 人や物に自分から関わろうとしない
- 待つことが苦手
- 自分で考える力が弱い
- 失敗を恐れる
- 切り替えが難しい
- 感情のコントロールが難しい
- 相手の思いを受け入れることが難しい

（人とのかかわり）

- 思っていることを言葉で伝えることが苦手
- 一人遊びの子が増えている
- 子どもより、大人と関わりたい気持ちが強い
- 甘えたいがうまく表現できない
- 挨拶言葉を使う子が減ってきている
- 考えて答えるような言葉のやりとりをしようとしていない
- 自分で判断して行動することが難しい
- 自分の思いや考えを持たず、ただ同じ場にいるだけだったりする
- 自分のしたいことが優先で、周りが見えていない
- イメージが乏しく、共有しにくい
- 自分の経験したことのない遊びは自信がなく、しようとしていない
- 満足して遊ぶためには、保育者の手立てが多く必要になってきている

（ものとのかかわり）

- 実体験の機会が減っている
- 自分から物事に興味関心を持つことが少なく、習い事等、与えられた体験をすることが増えてきている
- 失敗しないように周りが配慮することにより、失敗する経験が減っている
- 興味関心を持ったことでの成功体験が乏しい
- 身近な環境へ自ら主体的に関わろうとしない
- 試したり、工夫したりする遊びが少ない
- ゲームや YouTube 以外の遊びをじっくりと遊びこむ経験が少ない
- 戸外遊びが減ってきている

（子どもの家庭環境の変化）

- 子どもとどう接していいかわからない保護者の増加
- 様々なネット情報が提供され、その中の自分にとって取り入れやすい情報を基に子育てをしようとする保護者の増加
- 情報機器が身近な環境になっている
- SNS を通した保護者同士のつながりの増加
- 安全な遊び場の不足
- 家庭での言葉のキャッチボールの減少
- 子育ての孤立化

夢中になって遊びこむ子

資料2

こんな子どもに育てたい4本柱

- I 自立した生活を楽しむ子
- II 人とかかわることを楽しむ子
- III ものとかかわることを楽しむ子
- IV 探究することを楽しむ子

子どもの行動
や心の動きを
温かく受け止
め、理解しよ
うとする保育
者の適切なか
かわり

好奇心や想像
性を育む環境
構成

～ 遊びを通して ～

遊びとは

子ども自身が「やりたい」と思って自発的にする活動です。

社会性を身に付け、コミュニケーション力を高め、心身の発達を促します。また、様々なものに触れて、様々な考え方をすることで、独創性、創造性、柔軟性を育みます。

【保育所保育指針】
（保育の方法）

- ・一人一人の子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めること
- ・子どもの生活のリズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えること
- ・子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。その際、子どもの個人差に十分配慮すること
- ・子ども相互の関係づくりや互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにしよう援助すること
- ・子どもが自発的・意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること
- ・一人一人の保護者の状況やその意向を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助すること

【幼稚園教育要領】
（幼稚園教育の基本）

- ・幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする
- ・遊びを通しての総合的な指導が行われるようにする
- ・一人一人の特性に応じた指導が行われるようにする

「桑名市における就学前教育の今後のあり方について」答申

- ・子どもの笑顔と元気があふれる園づくりをします。
- ・遊びを通して学ぶことを大切に、人としての土台を作ります。
- ・保護者と協働して子どもを育てます。
- ・一人ひとりに寄り添い、確かな育ちを支えます。
- ・遊びを通して学ぶことを大切に、人としての土台を作ります。

【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】
（教育及び保育の基本）

- ・乳幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立に向かうものであることを考慮して、周囲との信頼関係に支えられた生活の中で、園児一人一人が安心感と信頼感をもっていろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにすること
- ・乳幼児期においては生命の保持が図られ安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること
- ・乳幼児期における自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること
- ・乳幼児期における発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、園児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、園児一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること

研修経過

【令和2年度】

6月	・桑名市共通カリキュラム調査推進委員選出 (公立幼稚園・保育所代表)
7月	・第1回作成部会 ◇ 子どもの様子から見られる課題の検討
8月	・第2回作成部会 ◇ 育てたい子どもの姿の検討 ◇ めざす子ども像の検討
9月	・第3回作成部会 ◇ 子どもの課題の記載の仕方の検討 ◇ 「こんな子どもに育てたい柱立て」の検討
11月	・第4回作成部会 ◇ 「こんな子どもに育てたい柱立て」の検討 ◇ 柱立ての内容の検討 ◇ カリキュラムの構成の検討
1月	・第5回作成部会 ◇ 視点の内容の検討 ◇ カリキュラムの構成の検討

【令和3年度】

5月	・桑名市共通カリキュラム調査推進委員選出 (公立幼稚園・保育所代表)
7月	・第1回作成部会 ◇ 昨年度の進捗状況の確認および今後の進め方について検討 ◇ 骨子について検討
9月	・第2回作成部会 ◇ 視点Ⅲ ものとかがわることを楽しむ子 「土・砂・水遊び」を通した各年齢における子どもの姿と保育の ポイントについて検討
11月	・第3回作成部会 ◇ 視点Ⅲ ものとかがわることを楽しむ子 「土・砂・水遊び」を通した各年齢における子どもの姿と保育の ポイントについて検討 ◇ 視点Ⅱ 人とかがわることを楽しむ子 「鬼ごっこ・ルールのある遊び」を通した各年齢における子ども の姿と保育のポイントの検討

1月	・第4回作成部会 ◇ 視点Ⅲ ものとかわることを楽しむ子 「土・砂・水遊び」を通した各年齢における子どもの姿と保育のポイントについて検討 ◇ 視点Ⅱ 人とかわることを楽しむ子 「鬼ごっこ・ルールのある遊び」を通した各年齢における子どもの姿と保育のポイントの検討 ◇ 視点Ⅰ 自立した生活を楽しむ子 「身の回りのものの管理・片付け」を通した各年齢における子どもの姿と保育のポイントについて検討 ◇ 視点Ⅳ 探究することを楽しむ子 「ごっこ・劇遊び」を通した各年齢における子どもの姿と保育のポイントについて検討
3月	・第5回作成部会 ◇ 公立版共通カリキュラムに関わる資料について検討、総合確認

資料4

カリキュラム作成に係る調査推進委員会名簿

名前	所属	備考
富田 昌平	三重大学教育学部幼児教育講座教授	令和2年度、令和3年度
夏川 厚美	多度保育所 所長	令和2年度、令和3年度
太田 智恵	多度保育所 保育士	令和2年度
小崎 尚美	長島幼稚園 園長	令和2年度、令和3年度
土屋 知子	成徳南幼稚園 教諭	令和2年度、令和3年度
横田 麻理子	桑陽保育所 保育士	令和3年度

【事務局】

崎山 ゆかり	子ども未来局 保育支援室 主幹	令和2年度
落合 智美	教育委員会事務局学校支援課 指導主事	令和2年度、令和3年度
渡邊 陽子	子ども未来局 保育支援室	令和3年度